

令和5年度第1回部活動の地域移行に関する協議会（議事録）

日 時 令和5年7月26日（水）14時00分～16時00分
場 所 県庁新館7階大会議室

1 開会

2 あいさつ

県教育長
座長選出

3 報告事項

（1）これまでの検討会等の経緯と協議会について

- ・事務局より資料1にそって報告
- ・大人側の論理ではなく、子どもの論理に立って考える。スポーツの楽しさの保証。関係者で情報共有。土日の部活動活動場所を、市町を超えて調整する仕組み。高校においては強化拠点校を作ること、高度競技志向の子どもを受け入れる学校づくり。

（2）地域移行における国の動向と本県での取り組み（実証事業）について

- ・事務局より資料にそって説明

<意見・質問>

- ・県立3中学校の扱いについては触れられていないが、県としてどのように取り扱っていくのか。
→ 高校と同じところにあるということで現状取り組めていない。水口東中学校では陸上競技など盛ん。そんな部分で地域連携を図るなどできれば。
- ・甲賀市では、市立中学校と一緒に活動できるように取り組んでいきたいが、完全に分けられている。そこのところを連携しておいていただかないと現場が混乱する。「うちは特別ですか？」などの問い合わせがある。県立中学校の扱いについてもお願いしたい。
- ・活動の教育的価値を継承発展できるかという課題。あくまでも学校活動そのまま地域ではないという風に言われたので、そこはそういう考え方でよいか。
→ 現実には部活動と地域を完全に切り離すというわけにはいかないかもしれないが、こちらの認識的にはそう考えておくべきである。
- ・実証事業をされる地域はどのように決定したのか。
→ 実証事業を実施される市町から手を上げていただいている。

4 議 事

●「学校部活動の地域移行に向けた方針（素案）」について

- ・事務局より資料にそって説明

<意見・質問>

- ・土日の変更のみだが、先を見てやっている県は平日もやっている。平日の動きも含めて考えていかなければならない。

- ・指導者にしても時間1700円程度。土日のどちらか2時間程度では3400円。その額で人が来るわけがない。大学を出てそんな仕事につくなんて親は許可しない。具体的な数字を並べていったら実現不可能。
 - ・すぐにでも受け入れる体制は整っているが、「じゃあどれだけお金くれるの」という話になる。そこなのところがはっきりしないと受け手もない。
 - ・スポーツ推薦が受けられないということで私立学校へ行かれるようになる心配もある。
 - ・学力も含めて2極化してしまうと、公立中学校の成り立ちに関わってくる。クラス編成ができないとかクラスの崩壊とかが起きる心配も。そこなのところも総合的に考えていった方がいいのかと思う。
 - ・国スポに向けて今年の1年生が強化対象になっているが、そうした生徒を確保する道筋をそれ以降も続けていかないと、国スポが終わったとたんの下位あたりをうろうろする県に落ち込んでしまう。地元の人材(選手)をどう確保していくか。
 - ・地域性がある中で一つの方針で賄いきれるのか心配。学校本来が持っていた価値をしっかりと残してほしい。
 - ・チャンピオンシップもあれば、そうでない活動もある。いろんなニーズに対応していくことは大事。
- 現状すぐに部活動がなくなるとは考えていない。まずは土日から、国の移行とどのように絡み合わせていくかが課題。
- ・部活動の価値を大切にしていくことが大事。子どもにとって大切な教育活動だと思っている。部活動指導の行き過ぎ、教員の働き方改革からこういった話が出てきたと思っている。菊先生が話された生徒の立場で考えることが大切であり、生徒が楽しんでできる活動にならないといけない。教員は、やりがいをもって指導している者もいるし、そうでない者もいる。様々な思いをもった教員がいる中で一律にすることはできず、やりがいをもっている教員には続けさせるべき。負担に感じている教員に対しては外部指導者を活用していくことになる。
 - ・指導を望む教員が兼職兼業の制度でできる環境も検討する必要がある。教員の働き方改革や基本的に教科指導が大切なのは事実。
 - ・教員の転勤(大人の都合)で子どもの環境がころころ変わるのはいくはない。まとまった環境(3~5年間)をきっちりと作っていくことが大事。
 - ・実証事業に手を上げていない市町はどうなっているのか。
- 実証事業を希望した市町は、国委託事業を活用する市町であるが、独自財源で取り組んでいる市町もある。近畿府県の状況を聞くと、国の事務手続き等の関係で、避けている動きもある。
- ・県北部の市に住んでいるが、様々な面で南部の方へ行ってしまう傾向があると思う。子どもたちが中心であり、格差があってはいけない。滋賀県の中で全ての子どもが同じような条件のもとで豊かな活動ができる環境づくりが必要。
 - ・実証事業を実施している市町だけでなく、子どものことを考えて市町で差が生まれないように取組を進めないといけないのではないか。
 - ・地域移行できる部活とできない部活があると思うが、それでもよしとするのか。また、学校によってさまざまな状況が入り混じった状態でもよしとするのか。素晴らしいモデルができればゴールなのか、どのあたりを思っているのか。
- 現状で答えられることは、少なくとも令和7年度までは部活動と地域クラブ活動は併存しながらできる部分からやっていくということ。直ぐに全学校の全部活動を地域移行できるとは思っていない。現状がある中でできるところからやっていくとしか言えない。
- ・部活動の時間を勤務時間内で終えて、その後もっと練習がしたいので看板を書き換えてクラブチームでやればよいという話になったときに、部活動の時間を制限していくのか、子どもの運動量を制限しているのか、考えていく必要がある。

- ・市町の受け皿によって全然違う。総合型地域スポーツクラブとして既にやっており、既に中学校の部活動に近いものもある。バレー、バスケ、バドなどで、平日・休日ともに中学生が地域と一緒に活動しているものもある。
 - ・スポーツ少年団の指導者など、そういった人たちへのアプローチはどうか。
 - ・剣道は、土日に武道館で様々な年齢のものが集合するなど既に地域での活動ができているなど、競技により事情が異なる。
 - ・地域によって実情が違うが、市町をまたいで活動していくなど、そういったことについても考えていく必要がある。
 - ・平日は学校での部活動を行い、土日は地域クラブで専門的にやったり、違う競技を行うことがあってもいい。自分がやりたいものをどうやって見つけていくかということも大切。
 - ・地域クラブがこういった体制で予算や指導者をもってくるのかで変わる。
 - ・時給 1700 円では指導者が来ないという意見もあったが、少しの交通費で、手弁当でも指導したいという人もいらっしゃる。そういった人をどうやって見つけていくのかも必要。
- 部活動指導員については年々予算を拡充しているが、指導者が見つからない現状がある。平日部活動の時間帯が、指導者の都合と合わない状況もある。
- いろんなケースがあって良く、例えば部活動指導員の導入で活動が成立することもあるし、一方で、競技人数（生徒数）がそろわずに、指導者確保が課題ではなく、地域の協力が必要となる場合もあると思う。県としては「これでいきます」というのではなく、今いる生徒たちがいかに活動できるかという環境を作っていくか、あるいは持続させていくかという部分を、まずは各市町の状況を聞いてそこを大事にしたいと考えている。
- ・方針（素案）についてはこれでいいとは思いますが、地域や競技によってかなり違うので、もっと考えなければならない。一律にはできない。
 - ・意向調査をされると思うが、このままでは学校からは深く考えた回答は得られない。市町に対して総合的に、競技毎に絵を描く必要がある。県からはそこに向けて進んでいけるように指導をしてほしい。自分たちで考え、動きをできるようにしてほしい。
 - ・市町が困っているのは具体が見えないからであり、目指す姿が見えないのでなかなか進みにくい。学校現場では新しい部活を作ってくれと言われても教員の関係から作れず、「あきらめてもらう」ということになってしまう。地域移行がうまくいけば、学校にない種目の活動ができることにもなるが、そこへ市町がリードしてくれないと学校単位ではなかなか進めない。学校規模が縮小すれば教員の人数も減り、その結果として部活動が減ってしまう。そうなれば生徒の活動の保証ができない。その部分を地域移行が担ってくれるというのが理想。
 - ・学校で外部指導者を入れよと言われても情報がなく困っている。また、外部指導者を入れたがゆえに、大きなトラブルで2、3年引きずったことがあった。きちんとした、学校に理解を持った指導者を入れていくことが大事。こういった点も課題である。
 - ・教員の中にも温度差があることや少子化の影響も大きいですが、地域移行は受け皿がないと上手くいかない。部活動がなくなると学校の魅力もなくなっていき、地域の活性化にも影響する。協議会に参加されている方は「スポーツの価値を高めてそれを生徒たちに還元したい」と思われている方が多いが、技術的な問題がネックになって議論が進んでいかない。具体的な事業に取り組めないといったところがある。事務局の方から素晴らしい理念が出されているので、皆さんで、それぞれの立場で実現していくというのがこの場での話し合いではないか。政策の理念が出されているので、中学校では生涯スポーツの基盤づくりといった視点で、子どもたちが生涯にわたってスポーツや文化を親しめる機会を作っていくということを学校と地域とで考えていく。学校で対応できる部活については学校で維持しながら、学校では難しいという部分を地域と相談しながら進めていく。
 - ・滋賀県の取組はスポーツ庁の委託事業かと思うが、スポーツ大学で関わっている事業は経産省の委託事業で「部活動を事業化できないか」という観点で取り組んでいるところがある。民間の企業などに「土日はお任せします」という形でそれだけの対価を払っていく。スポーツ庁の教育的な配慮

というところとは別に、経産省のビジネスというところで動いている。滋賀県の教育的なところを期待して部活動地域移行を推進させていくという考えについては賛成。ネックになるところは費用部分であり、スポーツ庁の事業は、令和5、6、7年度についても同様と考えてもよいのか。

→ 国の来年度の予算は明らかにされていないが、おそらくその方向だと考えている。

- ・令和8年から委託事業の予算がなくなったときに、これらの事業を各市町でどのように実践していくのが問題になる。続けていくためには、生活困窮家庭の配慮を考えながら、保護者負担も必要になる。大阪での塾の取組のような公金を用いた取組もあるので、滋賀県や各市町などでも部活動の費用を、公金を用いながら取組を進めていくのであれば、そういう方針が出ればある程度見通しが立つかと思うが、理念を実現させるための事業に関する具体的などころはある程度示していかなければならない。
 - ・立命館大学では指導者の問題（足りない、仕方なくやっている、等）を支援しながら社会貢献活動を始めている。部によってはスポーツ教室を開催しているところがある。部に入っている学生は多忙。部に入っていない学生に資格を取らせたりしながら指導者の確保につなげていく。現状なかなかつなげていかない。
 - ・指導者となるとボランティアだけではできない。保障の問題、特に怪我の問題（怪我させた、自分が怪我した等）。システムが構築できないと指導者が集まらない。
 - ・指導者の高齢化、お金の面で若い指導者が集まらないなど、指導者問題を何とかしないとうまくいかない。
 - ・単独校では維持できない競技をどうするか。また、競技力の高いレベルの生徒の受け皿をどうしていくか。現在、各競技団体の協力を得て、滋賀国スポに向けた強化事業を行っている。県域選手を集めて強化するノウハウが蓄積してきており、単独校では得られない高いレベルの指導の受け皿になり得ると考えている。国スポのレガシーとして今後も継続できるようにしていきたい。
 - ・指導の現場は教員（OB含む）が多い。意欲のあるこうした教員が、地域での指導にも出ていただけるような条件整備を考えていかなければならない。
 - ・国スポで活躍した選手が現役を終えた後、地域に移行した部活動の指導者として活躍することができる環境づくりが出来ると良い。
 - ・外部指導者のバンクができないか。リストを上げていただけると指導者を探しやすい。
- 人材バンクは現在整備をしているところ。部活動指導員とは離れるが。制度を作っているところなので、これから整備していく。指導要請に合わせて活用できるのではないかな。
- ・中学生スポーツ少年団もたくさんできてきている。
 - ・子どもたちは動き始めているが、動けていない子どもに目を向けてほしい。
 - ・なかなか参加できなかった子どもが参加できる仕組みづくりというのも新たに考えていかなければならない。「平日は部活動で、土日は移行したけど私は違う習い事をします。」という子どもも出てきている。そういった取組も部活動のあり方のひとつ。いろいろな選択肢を用意してあげることが大事。
 - ・コロナの中で部活動は中止になっている中、クラブチームは活動していた。こういった現実がある。クラブチームに入っている保護者でも学校が中止なのであれば行かせないという保護者もいる。
 - ・小学校では教員がスポーツ少年団に関わらないといった学校もでてきている。その結果指導者が暴走した事実も起きている。そういった教訓を生かしていかなければならない。やりたい人だけに任せてしまうことはしてはいけない。複数で対応するなど、対応策の検討必要。
 - ・市町によって温度差（格差）はかなりある。県から各市町にもねじを巻いてほしい。
 - ・地域が広がれば送迎の問題もある。片道1時間かけてともなれば、活動時間を作れない。
 - ・生涯スポーツとして考えられるようなシステムを作っていくってあげないといけない。

- ・長浜市の民間で生涯スポーツとして親子で考える協議会（団体）ができている。送迎などいろいろなことを一緒になって考えている。
- ・大学生を指導者として中学校へ派遣する事業を京都市で行っている。生徒や学校現場には喜んでもらった。18 中学校 20 部活以上を今年も派遣。学校管理下で実施。指導者のコーディネートをするのものすごい労力がある。部活動コーディネーターの配置、マッチングは非常に大事。滋賀県でもうまくいくかどうか（経産省事業 1800 円程度＋交通費）。学生にとっては責任と自覚につながる。ペイが出ると科目認定ができないので、科目認定するためにボランティアでの活動も少し入れている。
- ・土日だけでというのであれば意味はない。平日も含めて考えていくべき。
- ・課題が多い取組である。方針といっても細かく決まりごとを書き込むのではなく、色々なものを勘案しながら、子どもたちが取り組めるものになればよい。

5 その他

特になし

6 閉会